

令和5年9月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	5	議席 番号	19	氏名	植 松 健 一 議員	1 / 2
発言項目		要 旨				答弁者
1	富士山5合目レストハウスの再建について	<p>2021年に発生した火災により解体された富士山5合目レストハウスであるが、現在代替施設により国内外の来訪者及び登山者を受け入れている。</p> <p>昨年9月の定例会の決算審査特別委員会での市長の答弁で、静岡県は2028年を目標にレストハウスを再建する計画であるが、少しでも早く前倒しでやっていただくよう要望しているとあった。富士登山については、今年様々な問題が浮上し、大きな課題が残された形になっており、今後登山の形態が変わってくることも考えられる中、施設の整備は一刻も早く進めてほしいと感じる。以下、再建の現状について伺う。</p> <p>(1) 代替施設の本年の利用状況及び来年度以降の利用予測について。また、現在の運営はどのように行っているのか。</p> <p>(2) レストハウス再建に向けた静岡県の状況について。</p> <p>(3) レストハウス再建後の運営について。</p> <p>(4) 本年の登山で浮上した様々な問題について、市としての見解は。</p> <p>(5) 富士山総合指導センターの役割は。</p> <p>(6) 本年の登山で浮上した様々な問題に対応することも含め、再建されるレストハウスについては登山・観光案内所、富士山総合指導センター及び富士山衛生センターの機能も含めた富士登山の拠点としての整備を期待するがいかがか。</p>				市長 副市長 関係部長
2	万野風穴の有効利用について その2	<p>昨年11月定例会で万野風穴の有効利用について一般質問させていただいた。そのときの答弁は、万野風穴の歴史的価値を認め、今後富士山の噴火などについての学びの場としての利用を考えたい。また、貴重な天然記念物のある風致公園として適切な維持管理に努めたい。との答弁であった。その後、調査としてJAXAが中心になって行うUZUME計画の一端、火星の地下空洞の調査のためのシミュレーションプログラムが行われ、この調査計画に関する発表が8月26日に芝川文化ホールで「富士宮から火星の洞窟を探る」と題され行われた。今後のUZUME計画の進展も含め万野風穴の有効利用について再度伺う。</p> <p>(1) 万野風穴の調査がUZUME計画のシミュレーションプログラムとして行われることとなった経緯と現在の状況について。</p> <p>(2) 今後の洞窟計測探査シミュレーションはどのように進められていくのか。また、当市としてシミュレーションプログラム及びUZUME計画にどのように関与していくのか。</p> <p>(3) 今回発表会が行われたが、このような調査が行われていることをもっと市民に周知して万野風穴について関心を持ってもらうきっかけとしてはどうか。</p> <p>(4) 今回の調査により、万野風穴だけでなく周辺の洞窟及び窓穴も含め、その重要性が再認識されたと感じる。この一体の風穴を網羅する範囲の風致地区指定を考えてはどうか。また、個人の敷地内にある洞窟など今後の保存も考え、市で取得することも必要ではないかと考えるがいかがか。</p>				市長 副市長 関係部長

発言 順序	5	議席 番号	19	氏名	植松健一 議員	2/2
発言項目			要 旨			答弁者
			(5) 調査及びシミュレーションプログラムの終了予定はいつか。また、シミュレーションプログラムが行われることによりある種のプレミアムがつくと感じるが、それを生かした活用方法についてどのように考えるか。			